

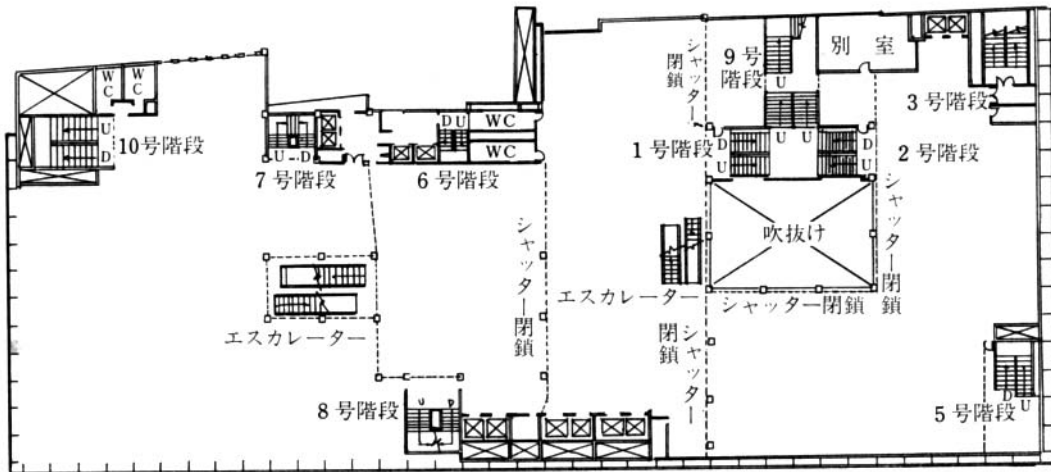
名 称 所 在	用 途 (令別表)	発 生 日 時 等	構造・階層 面 積	焼損程度 (焼損面積 延面積)	死 傷 者
松屋銀座店 東京都中央区 銀座 3～1	百貨店 (4)	昭和39年2月13日	耐 ㄥ	全・半・㊦・小	死者
		出火15時33分ころ 覚知15時37分 覚知別 報知電話 鎮火21時07分	建 4,739 m ² 延 45,659 m ²	3,862 m ² (8%)	0名 傷者 24名 (22)

I 火災概要								
① 概 要	西武百貨店火災より半年を過ぎないうちに再び銀座の百貨店で、5階の増築工事部分と既存売場との間に設けられたシャッター付近から出火し、5・6・7階部分を焼損した火災であった。西武と本火災とは類似点が多く火炎が高層階から発生し、上層階に延焼したこと、定休日であり増改築中であったこと等であり、とりわけ耐火建物でもよくよく燃え延焼すると一般に認識させる結果となった。							
② 階 別 状 況	階	床面積 m ²	焼損床面積 m ²	用途(売場)	在館者	死 者	避難設備等	消防用設備等
	R3	246.35		展 望 台			屋内階段 8箇所 救助袋 (3F～8F) 各階1箇所	③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊀ ㊁ ㊂ ㊃ ㊄ ㊅ ㊆ ㊇ ㊈ ㊉ ㊊ ㊋ ㊌ ㊍ ㊎ ㊏ ㊐ ㊑ ㊒ ㊓ ㊔ ㊕ ㊖ ㊗ ㊘ ㊙ ㊚ ㊛ ㊜ ㊝ ㊞ ㊟ ㊠ ㊡ ㊢ ㊣ ㊤ ㊥ ㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
	R2	294.27		展 望 台				
	R1	535.42		遊 園 施 設				
	8	4,169.62		催物会場, 食堂	8			
	7	4,287.88	769	売 場	42			
	6	4,458.90	1,020	"	2			
	⑤	4,512.97	2,073	"				
	4	4,594.49		"	4			
	3	4,674.17		"	5			
	2	4,565.38		"	11			
	1	4,739.25		売 場	29			
	B1	5,006.96						
	B2	2,151.64						
B3	1,422.18							
合計	45,659.48	3,862		101	0			
③ 出 火 場 所	(階, 室, 部位, 可燃物状況, 居室・非居室, 在・不在) 5階の増改築工事場所に接した事務用品, 文房具などの売場付近とみられている。				④ 出 火 原 因	不 明 5階事務用品売場の直上6階では、模様替作業中で酸素溶接機により午後1時ごろから床に残存の貫通鉄管切断作業をしており、その時の火花が溶融片が合板とハードボードを張り合せた天井上に落下着火したのではないかと推定されているが断定するまでにはいたっていない。		

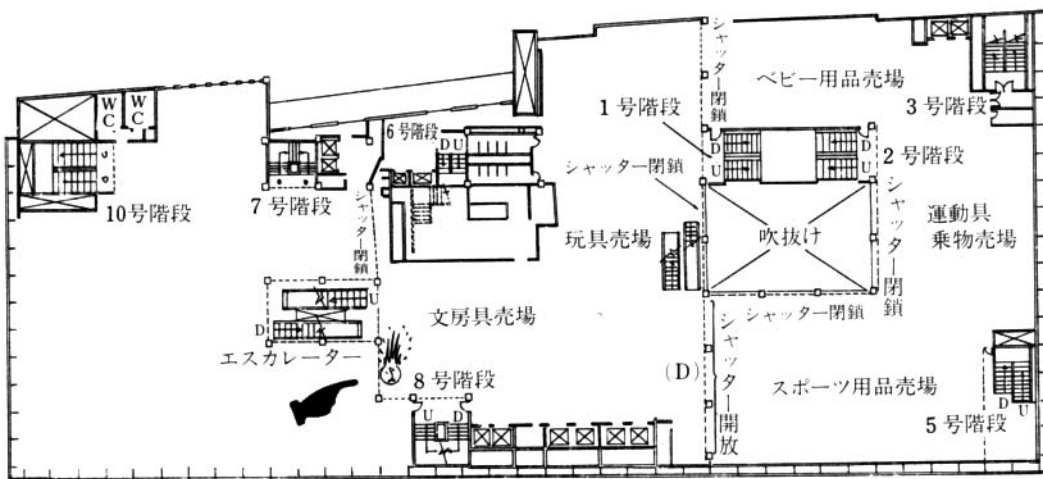
⑤ 火 災 の 延 焼 経 路 等	(出火部位)	(出火室の拡大)	(他室への拡大)	(上階への拡大)	6階7階の階段シャッターと接触状態にあった商品類
	5階事務用品、文房具販売場付近	商品等	偶発的に開放した防火シャッター(Dシャッター)	南西部の55階段室	
	<p>5階事務用品、文房具場所付近から出火した火勢は、工事場の方は隔壁にさえぎられて、玩具売場の方にのびたが、売場を南北に遮断している防火シャッターにさえぎられていた。ところがこの西側シャッター(D)がひとりで3/4ほど開いてしまったため、火勢はこれをこえてスポーツ用品売場から拡大し吹抜部分の周囲を一巡するにいたった。この間に南西部の5号階段室に熱気が噴出して階段室を上昇することになり、この階段室の西側外壁が外装工事のため、壁が打ち抜かれてあって外気が供給され6・7階の階段室シャッターを加熱、ほとんど接触状況にあった商品類が着火、それぞれ6・7階に延焼した。</p>				
	<p>○ 延焼拡大した主な理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 休日のため各階のシャッターおよび扉は閉鎖されており、外装は工事用シートおよび金網等で隠えいされ内部が間仕切られていたことと、耐火建物火災の特性である濃煙と熱気のため、消防隊の内部進入が困難であった。 ○ 5階、階段シャッター1面が開放されたままの状態であったうえ、階段周辺に可燃物が集積されていた。 ○ 煙の伝播経路 5階のシャッターが開放されたところから火勢が階段を煙通として上階へ流れた。 				
II 火災建物概要					
① 建築	<p>着工・竣工又は主たる改築等 増築確認 昭和38年1月12日 (新築)大正14年 月 日 (完成予定)昭和39年5月 日(約80%進行中)</p>				
管 理 状 況	② 縦 穴 の 状 況			③ 防 火 管 理 状 況	
	<p>階 段 <input checked="" type="checkbox"/> ダクトスペース <input checked="" type="checkbox"/> エレベーター <input checked="" type="checkbox"/> パイプシャフト <input checked="" type="checkbox"/> エスカレーター <input checked="" type="checkbox"/> その他() <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>○ 既存売場中央に1階から8階までの吹抜けがあり、4面とも売場とは防火シャッターで区画されている。 ○ 階段はそれぞれ防火シャッター、防火戸で区画されている。 ○ 年間数回査察が実施されており5・6階の指導事項としてシャッターラインの確保等があげられている。</p>			<p>○ 防火管理者、火元責任者、自衛消防組織等については定められており消防計画も樹立され署に提出されていた。 ○ 日常の防火管理、自主点検、夜間巡視等は良好であった。 ○ 出火当日は定休日のため、宿日直の編成により23名が勤務していたが5・6階には誰もおらず、3回巡回することになっていたが、勤務の都合で午後2時からの巡回は実施していなかった。</p>	
	④ 防 火 区 画 等			⑤ 消 防 用 設 備 等	
	<p>○ 売場には南北を2分する防火シャッターが設けられている。 ○ 工事部分と使用中の売場との区画は波形トタンとハードボード張り壁を設けてあった。</p>			<p>○ スプリンクラー設備は、現在3・4・5階の模様替部分に配管、ヘッドの敷設工事中であり未竣工であった。</p>	

III 火災後の行動		
① 発見状況	<p>○発見者 (従業員, 作業員, 警備員)</p> <p>○発見の動機 (煙)</p> <p>○発見後の行動 (警備本部, 現場事務所等へ連絡)</p>	
	<p>比較的早期に以下の者たちが発見している。</p> <p>○松屋電気係員H(45才)……午後3時すぎ, 7階家具売場のシャッターくぐり戸付近で, 前日購入した机を探しているうちエスカレータ付近から煙がわずかに出ているのを認め, そばにいた宿直Dに1階警備本部と電気室へ通報を依頼した。</p> <p>○工事作業員I(22才)……5階既存売場に接した工事現場内と事務所で留守番中, 天井に煙がたちこめてくるのに気付いた。売場に接する隔壁の上部から煙が入ってきたので現場事務所に連絡した。</p> <p>○警備員T(36才)……自火報配線工事に立合っている時, シャッター上部から煙がでているのを発見。</p>	
② 通報状況	<p>通報した <input checked="" type="checkbox"/> (警備係員) 出火後約(4)分</p> <p>通報しない <input type="checkbox"/></p>	
	<p>警備係員Mが1階警備本部で勤務中, 内線により上記の宿直Dから「7階のエスカレータ付近から煙が出ている。火事だ」という報せを受けたので, 119番で「松屋6・7階が火事です」と通報した。そこで宿直長はマイクで店内に火災発生ならびに混乱防止を放送している。</p>	
③ 初期消火状況	<p>成功 <input type="checkbox"/> 失敗 <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>○消火時期 <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>○消火困難性 <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>○消火方法 <input type="checkbox"/></p>	<p>(理由又は状況)</p> <p>1・2・3階にいた宿直員および一部の外来作業員, 本館にいた警備員等12名が消火器を持って階段に駆け上った。増築工事現場にいた建設作業員約10名も消火器を携行し消火に当たっているが効果はあまり認められなかった。警備員数名が屋内消火栓2ヶ所からホース(2~3本)を延長し, すでに熱くなっていた中央吹抜け区画の防火シャッターの冷却注水に従事した。そのうちに売場内を界している西側のDシャッターが開いてしまい, たちこめてきた煙で避難している。6・7階でも屋内消火栓を使用している。</p>
	<p>消火した</p> <p>○消火時期 <input type="checkbox"/></p> <p>○消火困難性 <input type="checkbox"/></p> <p>○消火方法 <input type="checkbox"/></p> <p>○その他 <input type="checkbox"/></p>	
④ 消火活動概要	<p>(消防上の支障・困難性等)</p> <p>○建物の外周部は外装工事のため養生シート, 金網が張り廻らされているので火勢の状況判断がむずかしく, 梯子の架梯による外部からの進入をも著しく阻害された。</p> <p>○階段による内部進入隊も防火シャッター, 防火戸等の開放に時間を要し, また出火が工事部分と既存売場との境あたりで, この界壁に波形トタンにハードボード張りが使われ工事部分には工事のため床面が大きく切り取られているなどのため, 火煙の状況が正常でなく, 屋内での火勢の判断も困難を極めた。この様な状況のため内部進入に成功しても有効な注水が阻害されがちであった。</p> <p>○耐火建物火災の特性である煙と熱気のため, 消防隊の行動は辛惨を極め, 負傷者22名中の大部分が火傷性角結膜炎を負っている。</p>	

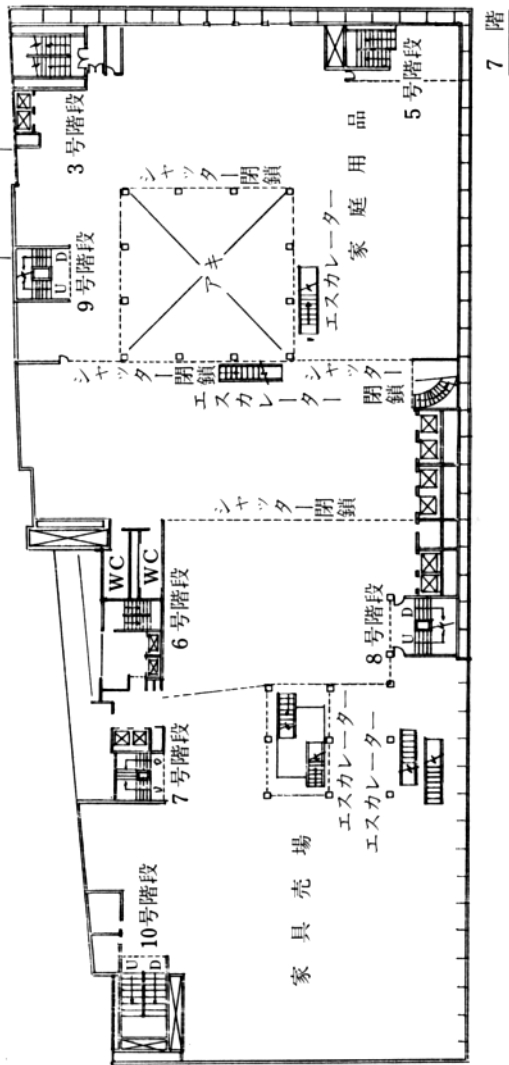
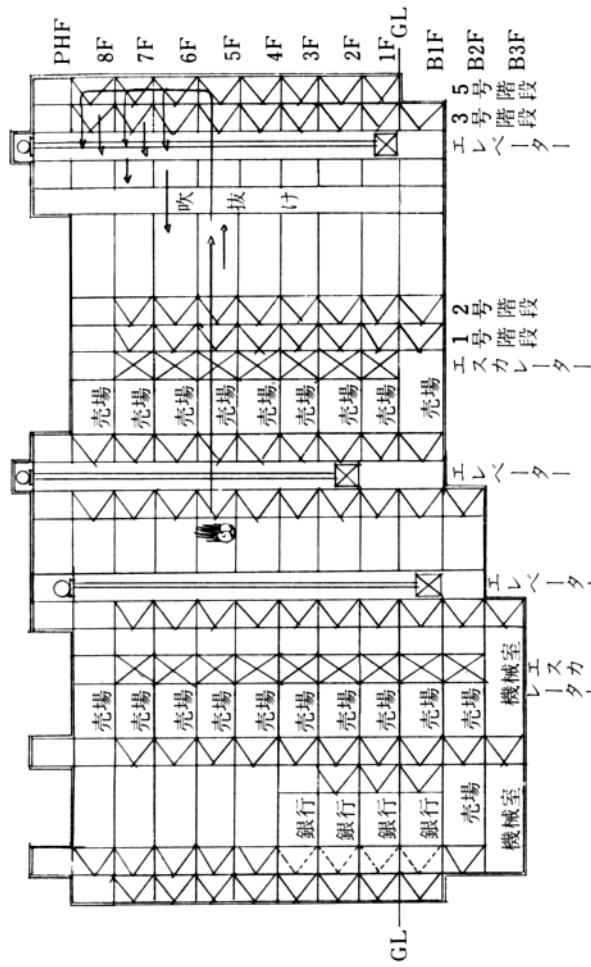
	避 難 方 法	避 難 上 支 障 事 項
⑤ 避 難 状 況	○階段を利用 <input type="checkbox"/> (人) ○エレベーター, エスカレータ利用 <input type="checkbox"/> (人) ○避難器具を利用 <input type="checkbox"/> (人) ○窓, 開口部から直接地上へ <input type="checkbox"/> (人) ○救助 <input checked="" type="checkbox"/> (1 人) ○その他() <input type="checkbox"/> (人)	○無 窓 <input type="checkbox"/> ○開口部の格子等 <input type="checkbox"/> ○非常口(出入口)等の施錠 <input type="checkbox"/> ○警報設備 <input type="checkbox"/> (管理不良, 機能不良, 未設置) ○停 電 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/>
	○梯子隊が6階へ架梯し, 逃げおくれた1名を救助。 ○当時の在店者は101名で, 店員と外来作業者であった。外来作業者の大半は百貨店の下請業者で館内に精通していることから, 組織的な避難誘導は行わず拡声放送等に従って自主的に避難したほか一部の作業者は初期消火等に協力している。(負傷者2名, 救助者1名。)	
⑥ 死 者 の 状 況	健康人 名 (泥酔者 名) 要保護者 名 [乳幼児 名] 高齢者 名 身体不 自由者 名 病人 名	避難上支障となった事項 ○無 窓 <input type="checkbox"/> ○開口部の格子等 <input type="checkbox"/> ○非常口(出入口)等の施錠 <input type="checkbox"/> ○警報設備 <input type="checkbox"/> (管理不良, 機能不良, 未設置) ○停 電 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/>
	な し	
IV 問題点・教訓等		
松屋銀座店は開店営業のかたわら, 増築・改修工事が行われていたことから, 営業部分と工事部分との二重の危険をもっていたといえる。最も大きな問題点は, 工事者側と, 既存部分の経営者側との防火管理上の連携に密接さを欠いていたところにあるといえる。		



6 階



5 階



7階